

ピアノ演奏とその鑑賞を通じた児童の資質能力育成の研究 —アウトリーチ活動による実践—

伊藤憲孝・野瀬百合子

福山平成大学
(福祉健康学部こども学科)

E-mail: noritakaito@heisei-u.ac.jp

【要旨】

本研究の目的は、音楽アウトリーチを通して、児童が鑑賞活動によってどのように音楽を聴取し、それらを受容したのかを探求することを目的とする。音楽アウトリーチとは、プロの音楽家や音楽団体が学校や地域社会に出向き、音楽を通じた教育活動やコミュニティ支援を行うことを指している。音楽アウトリーチの目的は、音楽教育の機会を広げ、子どもたちや地域住民が音楽に親しむ機会を提供することにある。音楽アウトリーチは、通常の音楽授業やコンサートでは得られない生の演奏体験を通じて、参加者の音楽に対する興味を喚起し、音楽に対する理解を深めることを目指している。そのため、楽器の体験ワークショップや、音楽家との交流などが含まれていることが多い。一方でアウトリーチ活動は、音楽家にとっても新たな教育方法を試みる機会となり、参加者との双方向のコミュニケーションを通じて教育効果を高めることができる。本研究を通し、次のようなことが明らかになった。この活動を通じて、児童たちはクラシック音楽やピアノ演奏についての理解を深め、感性を豊かにする経験を得ることができたと言える。また、ピアノという楽器がどのように音を生み出すのか、そのメカニズムを知ることによって、演奏行為への理解が深まったものと思われる。これらの経験を通じて、児童たちはクラシック音楽やピアノ演奏に対する興味を大いに高めるとともに、音楽が単なる聴覚的な刺激以上のものであり、感情や思考を豊かにする力を持っていることを理解したと推察される。また、音楽を通じて自分の感情を表現したり、他者と共感し合ったりする経験は、児童たちの感性を豊かにし、コミュニケーション能力の向上にも寄与したと思われる。

キーワード: アウトリーチ活動, 音楽アウトリーチ

1. はじめに

音楽は人間の感情や知識の発達において重要な役割を果たしてきた。中でも鑑賞は、児童の情緒的、認知的、社会的スキルの向上に寄与することが知られている。本論文では、小学校音楽科における鑑賞を通じた児童の資質能力育成の方法について考察し、アウトリーチ活動を用いた実践の成果について報告する。

1.1. 小学校音楽科における鑑賞の位置づけ

小学校音楽科において、「鑑賞」は重要な役割を果たす。「小学校学習指導要領」によれば、音楽科の目標は「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。」¹⁾であり、その一環として音楽鑑賞は欠かせないものと言える。音楽鑑賞は、子どもたちが多様な音楽文化に触れ、音楽の美しさや表現の多様性を理解するための重要な手段である。これにより、子どもたちは音楽の楽しさを体験し、音楽に対する興味や関心を深めることが期待されている。

一方で、音楽鑑賞はリスニングスキルや異文化への寛容性を育む機会も提供する。鑑賞を通じて、子どもたちは音楽の構造や要素を分析し、異なる音楽スタイルや文化的背景を理解する力を身につけることができる。これにより、音楽に対する深い理解が促進されるとともに、他の文化や価値観に対する寛容性も育まれると言える。

1.2. 音楽アウトリーチとは

「アウトリーチ」(Outreach)の本来の意味は、「手を伸ばす」「接触する」「手が届く」である。具体的には、支援やサービスが必要な人々やコミュニティに対し、積極的に接触し、そのニーズを満たすための活動を指している。アウトリーチ活動は、直接的な支援を通じて関係を構築し、支援を提供することを目的としている。アウトリーチは以下のような文脈で使われる。

1) 社会福祉・医療

ホームレスや低所得者層、依存症患者など、支援を必要とする人々に対して積極的に支援を提供する活動を指す。医療分野では、予防接種や健康診断などを提供することも含まれる。

2) 教育

教育機関や教育団体が、教育機会を提供するために地域社会に向く活動を指す。特に、過疎地域などアクセスが限られたエリアの児童・生徒・学生に対する教育プログラムの提供が含まれる。

3) 文化・芸術

プロのアーティストや演奏家、文化団体が地域社会や学校に向き、文化・芸術の体験を提供する活動を指す。これらには、ワークショップやパフォーマンス、展示会などが含まれる。

アウトリーチ活動は、特にアクセスが難しい、もしくはサービスを受けにくい人々やコミュニティに対して行われることが多く、社会的な平等や包括的な支援を目指している。

音楽アウトリーチとは、プロの音楽家や音楽団体が学校や地域社会に向き、音楽を通じた教育活動やコミュニティ支援を行うことを指している。音楽アウトリーチの目的は、音楽教育の機会を広げ、子どもたちや地域住民が音楽に親しむ機会を提供することにある²⁾。音楽アウトリーチは、通常の音楽授業やコンサートでは得られない生の演奏体験を通じて、参加者の音楽に対する興味を喚起し、音楽に対する理解を深めることを目指している。そのため、楽器の体験ワークショップや、音楽家との交流などが含まれていることが多い。一方でアウトリーチ活動は、音楽家にとっても新たな教育方法を試みる機会となり、参加者との双方向のコミュニケーションを通じて教育効果を高めることができる。本研究では、2) 教育および、3) 文化・芸術の双方にまたがる事柄を対象とする。

1.3. 音楽アウトリーチの現状

音楽アウトリーチの現状については、さまざまな研究が行われている。例えば、北條・吉田・鈴木・水野(2024)による報告では、芸術鑑賞会や楽器体験ワークショップが児童の主体的な学びを促進していることが示されている。これにより、児童は音楽に対する興味を深め、積極的に学びに取り組む姿勢が報告されている。また、佐々木・工藤・佐藤・青柳(2022)の研究では、「生演奏」の与える影響の大きさが指摘されている。その影響は、幼児が「豊かな感性と表現」を自発的に広げていくこととともに、様々な情操を培うことに繋がっていることが分かっている。さらに、木村・若原(2018)の研究では、従来の演奏会形式に基づく音楽アウトリーチの実践報告がなされている。この研究では、音楽アウトリーチが教育現場でどのように実践されているか、またその効果や課題について詳細に分析されている。

2. 本研究の目的

本研究は、アウトリーチ活動(2023年実施)を通して、

児童が鑑賞活動によってどのように音楽を聴取し、それらを受容したのかを探求することを目的とする。

3. 本研究の方法

本研究はアウトリーチ活動（2023年実施）を取り上げ、聴者である児童たちの意識を分析することにより、上記目的を果たす。意識の分析は参加児童たちに対しておこなったアンケート調査を質的に分析、考察することによっておこなう。

4. 活動の概要

4.1. 形態

体育館でおこなうクラシック音楽についての講演とピアノ演奏のコンサート

4.2. 内容

- (1) 野瀬百合子（稿者）によるピアノ演奏。
- (2) 野瀬百合子（稿者）によるクラシック音楽とピアノの仕組みについての解説。
- (3) 児童たちの発表と、その内容の共有。

4.3. 日時と場所

2023年5月31日（水）午前10時～11時 F小学校

2023年5月31日（水）午後2時～3時 N小学校

2023年6月1日（木）午前10時～11時 M小学校

2023年6月2日（金）午前10時～11時 O小学校

4.4. 会場図：図-1を参照

図-1における長方形は体育館を表す。ピアノは体育館の下手側に置き、生音で演奏した。また、手元が見えにくいので、カメラを設置しモニターに映した。

4.5. 講演者・演奏者：野瀬百合子

4.6. 聴者：小学校の児童，教職員

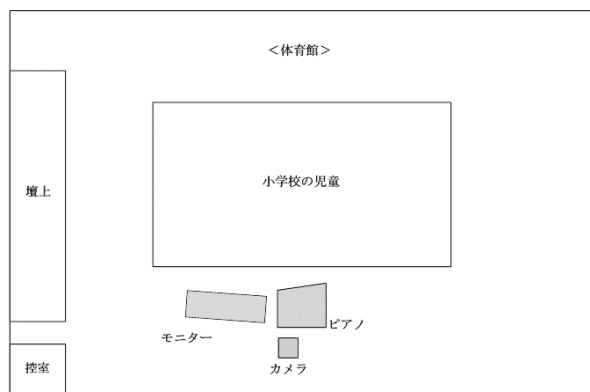
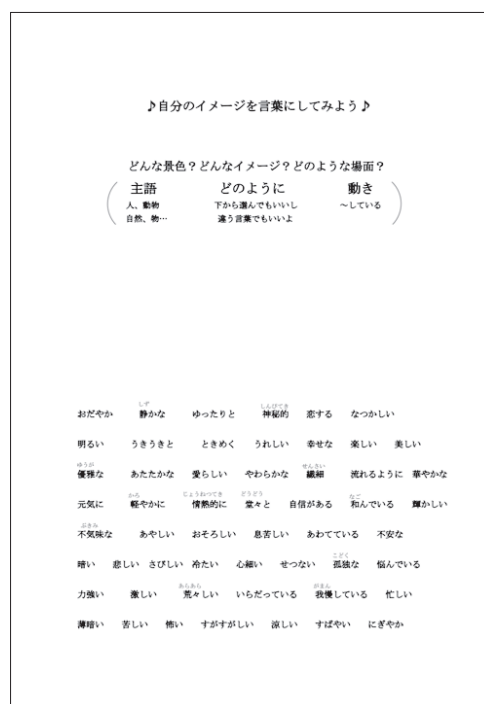


図-1 会場の見取り図

4.7. 当日のプログラム

- ① バッハ：主よ人の望みの喜びよ
- ② モーツァルト：トルコ行進曲
- ③ ベートーヴェン：「月光」第3楽章
- ④ ショパン：ポロネーズ 第6番「英雄」
- ⑤ ドビュッシー：月の光

上記演目のうち、③ベートーヴェン：「月光」第3楽章、④ショパン：ポロネーズ 第6番「英雄」、⑤ドビュッシー：月の光を対象に、資料-1を鑑賞への補足資料として使用した。



資料-1 児童への配布資料

5. 参加児童の意識調査の内容

5.1. アンケート実施時期

アウトリーチ活動実施日に実施した。

5.2. 対象者

本活動においての聴者である小学校の児童

5.3. 質問項目

- 〈質問1〉 今日のコンサートは楽しめましたか。
- 〈質問2〉 どのプログラムが気に入りましたか。
- 〈質問3〉 気に入ったプログラムのどこがよかったですか。
- 〈質問4〉 自由に感想や意見を書いてください。

6. 参加児童の意識調査の分析と考察

本節では、アンケートによって得られた参加児童の意

識に対する分析と考察をおこなう。

6.1.F 小学校の場合

6.1.1.F 小学校のデータ

児童の学年と人数：3年生，4年生，5年生，6年生
58名

6.1.2. 意識調査の結果

アンケートの質問と質問に対するF小学校の児童たちの回答は以下のとおりであった。

〈質問1〉 今日のコンサートは楽しめましたか。

	3年生	4年生	5年生	6年生
とても楽しかった	9人/15.5%	14人/24.1%	10人/17.2%	19人/32.8%
楽しかった	0人/0%	2人/3.4%	1人/1.7%	2人/3.4%
ふつう	0人/0%	1人/1.7%	0人/0%	0人/0%
もうすこし	0人/0%	0人/0%	0人/0%	0人/0%
楽しくなかった	0人/0%	0人/0%	0人/0%	0人/0%

表-1 〈質問1〉 へのF小学校の児童たちの回答

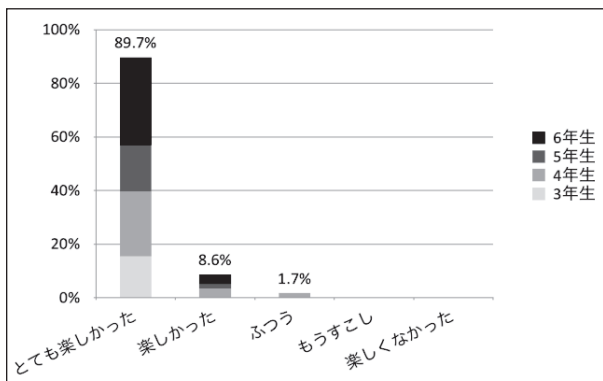


図-2 〈質問1〉 へのF小学校の児童たちの回答

〈質問2〉 どのプログラムが気に入りましたか。

	3年生	4年生	5年生	6年生
1	4人/6.9%	6人/10.3%	4人/6.9%	8人/13.8%
2	9人/15.5%	14人/24.1%	7人/12.1%	12人/20.7%
3	6人/10.3%	9人/15.5%	6人/10.3%	10人/17.2%
4	6人/10.3%	2人/3.4%	5人/8.6%	9人/15.5%
5	6人/10.3%	5人/8.6%	2人/3.4%	9人/15.5%
その他	0人/0%	1人/1.7%	0人/0%	0人/0%

表-2 〈質問2〉 へのF小学校の児童たちの回答

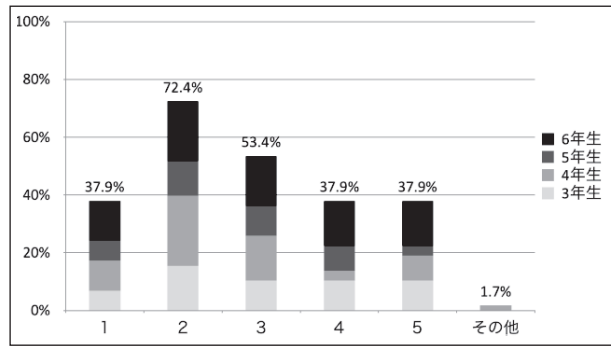


図-3 〈質問2〉 へのF小学校の児童たちの回答

〈質問3〉 気に入ったプログラムのどこがよかったですか。

(以下文末のカッコ内の数字は児童が選んだプログラムの番号を表す)(原文ママ)

(回答)

- ・すばやかかったところ・力強い。(3年②.④)
- ・トルコ行進曲は激しい感じでした。(3年②)
- ・聞いたことがある曲だからよかったです。(4年②)
- ・強い音で迫力があつたからです。(4年①.②.③.⑤)
- ・トルコ行進曲はリズムが良くてノリノリになれました。月の光はなめらかで、いろんな夜の出来事が想像出来ました。(4年②.⑤)
- ・トルコ行進曲をきいたときに、走りたくなくてウキウキになるような音楽で気に入りました。(5年①.②.③)
- ・月光は薄暗い曲で、リズム感が激しく、繰り返されていたことや、音の強弱があつたことがとても気に入りました。(5年③)
- ・うきうきして気持ちがたかぶるところが良かったから。(5年②)
- ・独特ではねているような音色が心に残りました。(5年①.②)
- ・ひとつひとつたくさんの音で様々な様子や感じが伝わっておもしろかったです。(5年①.②.③.④.⑤)
- ・ベートーヴェンの、みんなに聞いて欲しいという思いが良いと思った。(5年①.④)
- ・モーツァルトのトルコ行進曲は音楽では聴いたことあるけど初めて弾いてもらって録音したのよりも迫力がすごいし、指の動きもすごかつたし「急がない」と思う気持ちが出てきたのでひいてもらって気に入りました。(5年②.③.④)
- ・きれいで神秘的でとても美しかったです。きいているだけで胸が躍りました。一つ一つの良さがたくさん

あってキラキラしていました。(6年①～⑤)

- ・何回か聞いたことはあるけど間近でみれてよかったです。(6年②.③.⑤)

〈質問4〉自由に感想や意見を書いてください。

(回答)

- ・慣れていてすばやくてすごかったです。
- ・一時間がすぐにたってしまって残念だったけど、この時間を存分に楽しむことができました。機会があればもう一度野瀬さんの演奏を聴きたいです。
- ・昔まだピアノができていなかったときは、チェンバロという楽器を使っていたということが分かりました。
- ・色々なことを教えてくれたのでたくさんの人の名前を知ることができてうれしかったです。
- ・指の動きの速さと野瀬さんのだすきれいな音に感動しました。
- ・ピアノがなめらかで、心が落ち着きました。
- ・ピアノや楽器の歴史、曲ができた歴史や誰が作ったのかわかって勉強になりました。
- ・今までクラシックはすべて同じ時代かと思っていたけど、お話を聞いて同じ時代ではないことが分かりました。今日の経験からクラシックに興味をもったのでまた聞きたいなと思いました。
- ・野瀬百合子さんからいろいろな知らないことをきいてベートーヴェンは耳が聞こえなくなり、指揮棒を歯にくわえて音を感じていたのをきいたときはびっくりしました。
- ・どの曲も流れ込むように美しい音色ですごいと思いました。
- ・今までピアノに興味がなかったけれど、今日ピアノに興味をもつことができました。
- ・様々な曲を聴きましたが、すべてが心に残りました。クラシックは日ごろから聴いているので、ピアノだけでひいてもさらに曲の感じが良くなるのだなと思いました。
- ・私は野瀬さんの演奏を聴いてクラシックの良さを知れました。それは作曲した人の特徴が知れることです。クラシックはよく聞きますが、曲調に気を付けて聴いていこうと思います。
- ・私もピアノを習っていて新しいヒーローが増えました！あんなに難しい曲を弾いてとても鳥肌がたちました。
- ・感情をピアノの音だけで表現していてかっこよかった

です。またリーデンローズでいろいろなピアノの演奏をみて色々な曲を聴いて興味を持ちたいです。

6.1.3. 意識調査の分析と考察

学年が混在する鑑賞のためか、各学年によって異なる回答が見られる。質問3から見ていくと、3年生、4年生ではきちんと自身のイメージに合った言葉を選んでどう感じたかを具体的に書いている。例えば「トルコ行進曲はリズムが良くてノリノリになりました。月の光はなめらかで、いろんな夜の出来事が想像出来ました。」とあり、児童が自身の感性を知り、イメージを膨らませることで、より感性を豊かにすることに繋がった。5年生、6年生はさらに具体的に踏み込んで書かれている。「ひとつひとつたくさんさんの音で様々な様子や感じが伝わっておもしろかったです。」「モーツァルトのトルコ行進曲は音楽では聴いたことあるけど初めて弾いてもらって録音したのよりも迫力がすごいし、指の動きもすごかったし「急がない」と思う気持ちが出てきたのでひいてもらって気に入りました。」など、録音と生演奏の差異を発見した様子が見てとれる。「きれいで神秘的でとても美しかったです。きいているだけで胸が躍りました。一つ一つの良さがたくさんあってキラキラしていました。」では、自身のイメージを持って意欲的に聴くとともに、音楽を聴いて色彩を感じることができる共感覚の効果が得られた。「ベートーヴェンの、みんなに聞いて欲しいという思いが良いと思った。」では、作曲家の思いに共感し、作曲家の気持ちに寄り添った感想が述べられている。

質問4では、「一時間がすぐにたってしまって残念だったけど、この時間を存分に楽しむことができました。機会があればもう一度野瀬さんの演奏を聴きたいです。」とあり、長時間集中力を維持し、鑑賞する楽しさを実感したことが分かる。「昔まだピアノができていなかったときは、チェンバロという楽器を使っていたということが分かりました。」「ピアノや楽器の歴史、曲ができた歴史や誰が作ったのかわかって勉強になりました。」「今までクラシックはすべて同じ時代かと思っていたけど、お話を聞いて同じ時代ではないことが分かりました。今日の経験からクラシックに興味をもったのでまた聞きたいなと思いました。」「野瀬百合子さんからいろいろな知らないことをきいてベートーヴェンは耳が聞こえなくなり、指揮棒を歯にくわえて音を感じていたのをきいたときはびっくりしました。」「私は野瀬さんの演奏を聴いてクラシックの良さを知れました。それは作曲した人の特

徴が知れることです。クラシックはよく聞きますが、曲調に気を付けて聴いていこうと思います。」では、楽器や作曲家についての知識が増え、内容に対する理解が質的に変化したことにより、音楽のスタイルや文化的背景への理解が促されたと言える。

6.2. N 小学校の場合

6.2.1. N 小学校のデータ

児童の学年と人数：3年生、4年生、5年生、6年生
92名（無回答1名）

6.2.2. 意識調査の結果

アンケートの質問と質問に対するN小学校の児童たちの回答は以下のとおりであった。

〈質問1〉 今日のコンサートは楽しめましたか。

	3年生	4年生	5年生	6年生
とても楽しかった	23人/25%	18人/19.6%	16人/17.4%	22人/23.9%
楽しかった	2人/2.2%	0人/0%	1人/1.1%	6人/6.5%
ふつう	0人/0%	1人/1.1%	1人/1.1%	1人/1.1%
もうすこし	0人/0%	0人/0%	0人/0%	0人/0%
楽しくなかった	0人/0%	0人/0%	0人/0%	0人/0%

表-3 〈質問1〉 へのN小学校の児童たちの回答

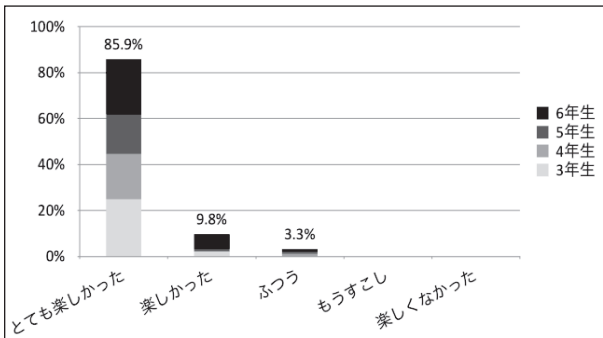


図-4 〈質問1〉 へのN小学校の児童たちの回答

〈質問2〉 どのプログラムが気に入りましたか。

	3年生	4年生	5年生	6年生
1	13人/14.1%	10人/10.9%	7人/7.6%	13人/14.1%
2	23人/25%	18人/19.6%	14人/15.2%	23人/25%
3	15人/16.3%	10人/10.9%	10人/10.9%	16人/17.4%
4	12人/13%	10人/10.9%	8人/8.7%	8人/8.7%
5	14人/15.2%	9人/9.8%	7人/7.6%	14人/15.2%
その他	1人/1.1%	0人/0%	3人/3.3%	0人/0%

表-4 〈質問2〉 へのN小学校の児童たちの回答

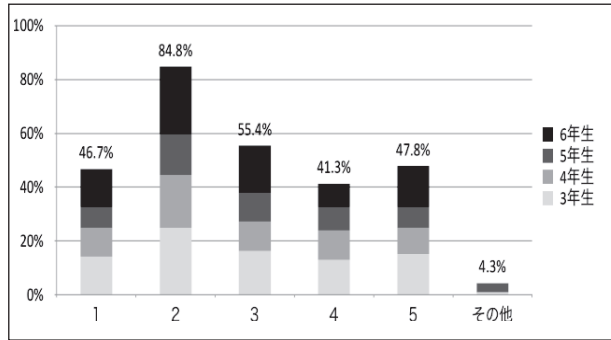


図-5 〈質問2〉 へのN小学校の児童たちの回答

〈質問3〉 気に入ったプログラムのどこがよかったですか。

(以下文末のカッコ内の数字は児童が選んだプログラムを表す) (原文ママ)

(回答)

- ・すごく力強くていいなと思いました。(②)
- ・激しいところと音色が良かった。(①～⑤)
- ・怖くなったところ。(①.②.③)
- ・元気が出たり、機嫌がよくなる。(②.③.⑤)
- ・優しいところが良かったです。(⑤)
- ・野瀬さんがとても真剣に弾いていたし、指が一本も休んでいなかったから。(①～⑤)
- ・ゆっくりゆったり色々な曲がきけました。(②)
- ・月の光のやわらかいのが良かったです。(①～⑤)
- ・時代と作曲者の紹介。(①～⑤)
- ・想像しただけで楽しくなる場所。(③)
- ・なんだかゲームで出てきそうだった。(①～③)
- ・強いところと弱いところの差がよかったです。(①.②)
- ・追いかけているみたいで良かったです。(②)
- ・なめらかな音で眠りそうになった。(⑤)
- ・ベートーヴェンやモーツァルトのことがよく知れたからです。(①～⑤)
- ・すべて体でも表現されていて、強弱がはっきりしていて、とても楽しかったところです。(①～⑤)

〈質問4〉 自由に感想や意見を書いてください。

(回答)

- ・いろんな曲を知れてうれしかったです。
- ・もっとピアノに詳しくなってもう一度きいてみたい。
- ・またいろんな昔の人(クラシック)を調べたいです。
- ・とてもきれいな曲で、今日もっともっとハッピーになりました。

- ・カメラがあったので、手の動きがよくわかってうれしかったです。
- ・弾く曲によって手の動き方が違っておもしろかった。
- ・四つのピアノの時期があることを初めて知ったし、人物も全員もっと知りたいと思いました。
- ・ピアノをしているときに感情を入れてやっていたのがとてもすごいなと思いました。
- ・私はピアノを習っているのですが、強弱の激しいところなどを、ただ乱暴におさえるだけではなくて気持ちを込めて弾こうと思いました。
- ・ワークシートに例みたいなのがあって書きやすかったです。どれも私が好きな曲ばかりで聴いていてうれしかったし、すごく楽しかったです。前にホワイトボードがあってメモを取りやすかったし、わかりやすかったです。
- ・自分の想いのところに○をするのがとても楽しかったです。

6.2.3. 意識調査の分析と考察

質問3のトルコ行進曲では、「すごく力強くいいなと思いました。」「追いかけているみたいでよかったです。」と回答があった。また月の光では、「優しいところが良かったです。」「なめらかな音で眠りそうになった。」とあり、同じ曲を聴いても異なる表現での回答が見られる。

また質問4では、「ワークシートに例みたいなのがあって書きやすかったです。どれも私が好きな曲ばかりで聴いていてうれしかったし、すごく楽しかったです。前にホワイトボードがあってメモを取りやすかったし、わかりやすかったです。」「自分の想いのところに○をするのがとても楽しかったです。」から分かるように、資料-1の活用が発言を促していることが窺える。そして「いろんな曲を知れてうれしかったです。」「もっとピアノに詳しくなってもう一度聞いてみたい。」「またいろんな昔の人（クラシック）を調べたいです。」「四つのピアノの時期があることは初めて知ったし、人物も全員もっと知りたいと思いました。」からは、音楽の知識が増えることで、興味関心を増すことへと繋がる事が分かる。

6.3. M 小学校の場合

6.3.1. M 小学校のデータ

児童の学年と人数：5年生、6年生 79名

6.3.2. 意識調査の結果

アンケートの質問と質問に対するM小学校の児童たちの回答は以下のとおりであった。

〈質問1〉 今日のコンサートは楽しめましたか。

	5年生	6年生
とても楽しかった	28人/35.4%	39人/49.4%
楽しかった	4人/5.1%	6人/7.6%
ふつう	1人/1.3%	1人/1.3%
もうすこし	0人/0%	0人/0%
楽しくなかった	0人/0%	0人/0%

表-5 〈質問1〉 へのM小学校の児童たちの回答

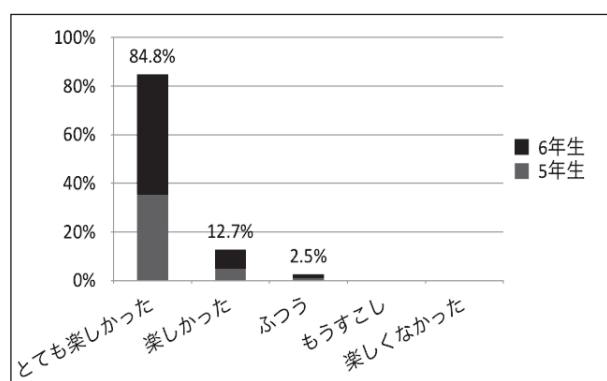


図-6 〈質問1〉 へのM小学校の児童たちの回答

〈質問2〉 どのプログラムが気に入りましたか。

	5年生	6年生
1	19人/24.1%	21人/26.6%
2	27人/34.2%	33人/41.8%
3	18人/22.8%	23人/29.1%
4	16人/20.3%	15人/19%
5	14人/17.7%	21人/26.6%
その他	1人/1.3%	0人/0.0%

表-6 〈質問2〉 へのM小学校の児童たちの回答

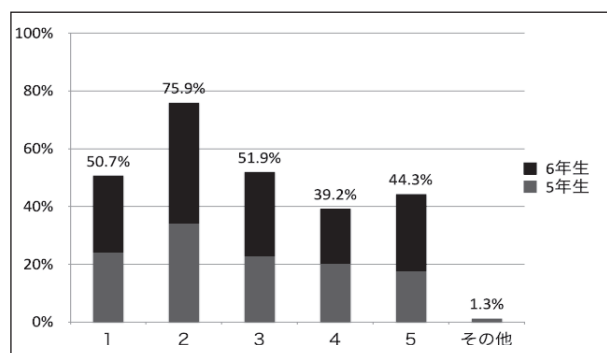


図-7 〈質問2〉 へのM小学校の児童たちの回答

〈質問3〉気に入ったプログラムのどこがよかったですか。(以下文末のカッコ内の数字は児童が選んだプログラムの番号を表す)(原文ママ)

(回答)

- ・月光はテンポが速くて強弱が激しいところが好きです。英雄ポロネーズは明るい感じと暗いところが混じったように感じて好きです。(③.④)
- ・ベートーヴェンは耳が聞こえなかったのにこんなすごい曲が作れてすごいと思いました。(②.③)
- ・トルコ行進曲の弾むような音が気に入った。(②.④)
- ・あまり目の前で聞いたことがなかったのでよかったです。(②)
- ・特にバッハ作曲の「主よ人の望みの喜びよ」はすごく音が響いていて迫力がありません。みんなの心を惹きつけていたと思います。(①～④)
- ・音の強弱や雰囲気、いろんな場面や場所、時間を感じることができて、曲の中に入り込むような感覚を味わえました。(④.⑤)
- ・トルコ行進曲→今練習している曲であんな風に弾きたいなと感じました。英雄ポロネーズ→私の好きな曲でもあったので生で聴けたのがうれしかったです。力強くてよかったです。(②.④)
- ・いろんな感じ方があったり、様子が思いついたり、人それぞれ感じ方や表現が違って面白いなと思った。(①～⑤)
- ・ぼくは流れるような曲が好きで、この3つのプログラムは流れるような曲でとても耳に残る曲でよかったです。(①.③.⑤)
- ・楽しくなる音楽で踊りたくなりました。テンションが上がる音楽でした。(②)
- ・ピアノのフルネームやピアノの中を知れたのでよかったです。(無回答)
- ・心がゆったりになって、幸せな思い出を振り返る感じだったところが気に入った。(②.⑤)
- ・一つ一つの音に野瀬さんの思い、気持ちが込められていてとっても感動しました。(①～④)

〈質問4〉自由に感想や意見を書いてください。

(回答)

- ・強弱や表現がすごくついていてすごいなー！と思いました。普通に弾くのではなく、相手にどんな様子が浮かぶかを音で問いかけているように感じました！弾いている姿がかっこよかったです。

- ・今度リーデンローズに行って会いたいです。またピアノの演奏を聴きたいです。
- ・いろいろな作曲家が知れたし、秘密も知れて勉強になった。
- ・もとはあまりピアノに興味がなかったけど、今回でピアノを弾いてみたいと思った。
- ・ピアノが上手になるコツを教えてください！野瀬さんみたいになれるように頑張ります！
- ・すごいピアノのことを愛しているんだと思った。
- ・とてもきれいなピアノでした。私はモーツァルトのトルコ行進曲しか聞いたことがないので、バッハ、ベートーヴェン、ショパン、ドビュッシーの音楽もたくさん聴きたいです。

6.3.3. 意識調査の分析と考察

質問3では、「あまり目の前で聞いたことがなかったのでよかったです。」「特にバッハ作曲の「主よ人の望みの喜びよ」はすごく音が響いていて迫力がありません。みんなの心を惹きつけていたと思います。」「トルコ行進曲→今練習している曲であんな風に弾きたいなと感じました。英雄ポロネーズ→私の好きな曲でもあったので生で聴けたのがうれしかったです。力強くてよかったです。」とあり、目の前で実際の演奏者が演奏するアウトリーチ活動だからこそその感想であると思われる。このような回答は他校でも見受けられたが、既存のコンサートホールで一般的な舞台と客席という物理的な距離はなく、近距離で演奏できるため強弱や表現によつての体や指の動き、呼吸に関する気付きが多かったものと思われる。「音の強弱や雰囲気、いろんな場面や場所、時間を感じることができて、曲の中に入り込むような感覚を味わえました。」では、音楽に熱中しながら創造力を育み、没入感を体験したことが窺える。「楽しくなる音楽で踊りたくなりました。テンションが上がる音楽でした。」では、音楽を聴くだけの受動的な活動だけでなく、主体的に関わり、感受性の育成に繋がった。これはトルコ行進曲への回答であるが、本活動を実施した4校全ての小学校でトルコ行進曲が最も人気であった。これは知名度が高い楽曲であることが理由と推察されるが、それと同時に体を動かしたくなるようなリズムが特徴的な音楽であることが関係しているように思われる。「ピアノのフルネームやピアノの中を知れたのでよかったです。」では、ピアノは学校に身近にあり知名度は高い楽器であるが、どの学校でも仕組みや素材についての認知度は低

かった。ハンマーアクションの動きを見せ、音の出る仕組みやハンマーが羊毛でできていることを認知してもらったり、響板の説明では響板にオルゴールを当てて響板の効果に気づいてもらったりなど、表面的な情報だけではなく、より詳細な部分まで認知させることができた。

質問4では、「強弱や表現がすごくついていてすごいなー！と思いました。普通に弾くのではなく、相手にどんな様子が浮かぶかを音で問いかけているように感じました！弾いている姿がカッコ良かったです。」とあり、演奏者の高い技能や集中力、音楽性を目の当たりにし、驚いていることが窺える。「今度リーデンローズに行つて会いたいです。またピアノの演奏を聴きたいです。」では、アウトリーチ活動の第一目標であるホールへ行って演奏を聴いてみたいという意欲を掻き立てることに成功している。「ピアノが上手になるコツを教えてください！野瀬さんみたいになれるように頑張ります！」では、自身の楽器演奏への自発的な努力を促すことができた。「もとはあまりピアノに興味がなかったけど、今回でピアノを弾いてみたいと思った。」「とてもきれいなピアノでした。私はモーツァルトのトルコ行進曲しか聞いたことがないので、バッハ、ベートーヴェン、ショパン、ドビュッシーの音楽もたくさん聴きたいです。」では、知的好奇心を高め、行動力や探究心を引き出すことができています。

6.4.0 小学校の場合

6.4.1.0 小学校のデータ

児童の学年と人数：6年生 57名

6.4.2. 意識調査の結果

アンケートの質問と質問に対する0小学校の児童たちの回答は以下のとおりであった。

〈質問1〉今日のコンサートは楽しめましたか。

	6年生
とても楽しかった	53人/93%
楽しかった	4人/7%
ふつう	0人/0%
もうすこし	0人/0%
楽しくなかった	0人/0%

表-7〈質問1〉への0小学校の児童たちの回答

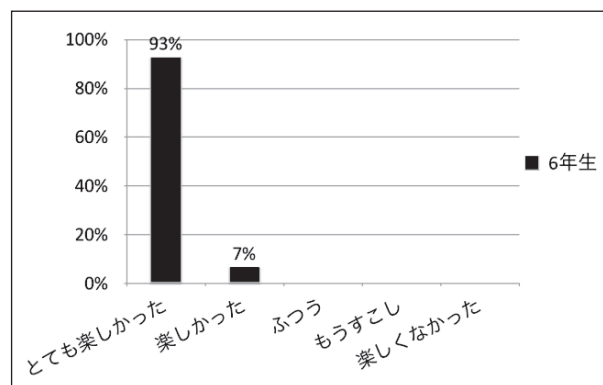


図-8〈質問1〉への0小学校の児童たちの回答

〈質問2〉どのプログラムが気に入りましたか。

	6年生
1	15人/26.3%
2	43人/75.4%
3	29人/50.9%
4	19人/33.3%
5	29人/50.9%
その他	12人/21.1%

表-8〈質問2〉への0小学校の児童たちの回答

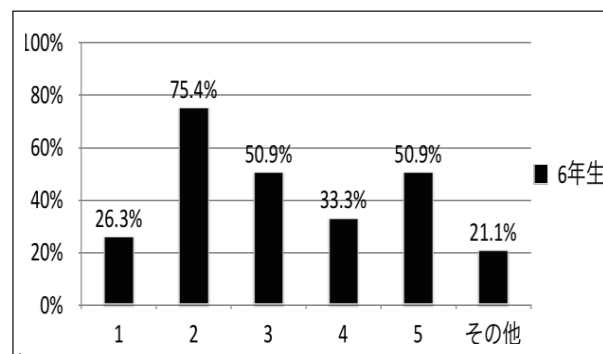


図-9〈質問2〉への0小学校の児童たちの回答

〈質問3〉気に入ったプログラムのどこが良かったですか。(以下文末のカッコ内の数字は児童が選んだプログラムの番号を表す)(原文ママ)

(回答)

- ・トルコ行進曲→明るく楽しい曲想で楽しくなってくる。リズムもつかみやすくてリズム感が良かった。月の光→神秘的な景色が頭の中で思い浮かんだ。音色も変わっていて場面の移り変わりが想像できた。(②.⑤)
- ・薄暗いところから情熱的になるところが良かった。

(②.③.④)

- ・曲を聴く前にベートーヴェンがどんな様子で作ったか説明してもらったので、その様子を想像して、すごく暗いイメージが持ってたので、今までのイメージと少し変わって曲を聴くことができたのがよかったです。(③)
- ・トルコ行進曲はもともと知っている曲でYouTubeで聞いていたのですが、ピアノを生で聴くのは全然印象が違って楽しかったです。月の光は最初にイメージをなんとなく広げていたおかげで、曲を聴いたらイメージがすぐに伝わってきました。みんなのイメージ(感性の違い)もわかってとても楽しかったです。(②.③.⑤)

- ・月の光は穏やかな曲で、海や森や湖などいろいろな自然の情景が浮かんできました。ショパン作曲の英雄ポロネーズは少し儂い感じで色々な人の顔が浮かびました。(①~⑤)
- ・全部、個性があって暗かったり荒々しかったり楽しいとかのイメージがたくさんあってききやすかったです。(①~⑤)

〈質問4〉自由に感想や意見を書いてください。

(回答)

- ・とても楽しく、普段知らなかったことまで色々教えてもらい、いい勉強になりました。少し苦手だった音楽が好きになりました。ぼくたちにこんないい思い出をつくってくださりありがとうございます。
- ・歴史とかさねて、たくさんの作曲家の説明をしてくださったのですごくわかりやすかったです。特に曲から想像を膨らませるために工夫をして下さったので、想像が膨らんだだけでなく、想像することで作曲家の想いや、曲の良さも感じ取ることができたのですごく勉強になりました。今度はホールで響きを感じとりたいです。
- ・ぼくはどうしていろいろな感性があるのかが気になりました。
- ・初めてプロのピアニストに会ったのでドキドキしました。聴いたときに本当にあれ学校のピアノかよと思いました。聞いたことあるけど、名前は知らなかった曲の名前を、今回の音楽で色々しれました。
- ・小さい音を響板の中でだしたら、大きくなったのがとてもびっくりしました。
- ・クラシックっていい曲だなと思いました。音楽にも

いろいろな時代があったことや、今私が聴いている曲は、クラシックがもとにあることが分かりました。またクラシックを聴きたいです。

- ・私の夢はバレーボール選手になることで全然違うけど、努力をしたり、上手い人を見たり、なりたい夢について詳しく調べたりしてるのは同じなんだなと思いました。将来の夢に向かってたくさん頑張っていきたいと思いました。

6.4.3. 意識調査の分析と考察

質問3では、「トルコ行進曲→明るく楽しい曲想で楽しくなってくる。リズムもつかみやすくてリズム感が良かった。月の光→神秘的な景色が頭の中で思い浮かんだ。音色も変わっていて場面の移り変わりが想像できた。」「薄暗いところから情熱的になるところが良かった。」「月の光は穏やかな曲で、海や森や湖などいろいろな自然の情景が浮かんできました。ショパン作曲の英雄ポロネーズは少し儂い感じで色々な人の顔が浮かびました。」と回答があり、資料-1の活用が情緒的スキルの向上に寄与していることが窺える。そして本活動では、教育者・演奏者が助力することで、児童たちの感性をより育むことに繋がるのが分かった。

質問4では、「とても楽しく、普段知らなかったことまで色々教えてもらい、いい勉強になりました。少し苦手だった音楽が好きになりました。ぼくたちにこんないい思い出をつくってくださりありがとうございます。」とあり、音楽の楽しさを実感し、苦手なものから好きなものへ変化させることに成功した。「歴史とかさねて、たくさんの作曲家の説明をしてくださったのですごくわかりやすかったです。特に曲から想像を膨らませるために工夫をして下さったので、想像が膨らんだだけでなく、想像することで作曲家の想いや、曲の良さも感じ取ることができたのですごく勉強になりました。今度はホールで響きを感じとりたいです。」では、本活動を通して音楽を聴くことに楽しみと喜びを覚え、さらに聴いてみたいと意欲が湧いていることが窺える。「初めてプロのピアニストに会ったのでドキドキしました。聴いたときに本当にあれ学校のピアノかよと思いました。聞いたことあるけど、名前は知らなかった曲の名前を、今回の音楽で色々しれました。」という回答では、同じピアノでも弾く人によって音色が変わることに気づくのは、現地へ行って普段聴き慣れている学校のピアノで演奏しないと出てこない感想であろう。

7.まとめ

この活動を通じて、児童たちはクラシック音楽やピアノ演奏についての理解を深め、感性を豊かにする経験を得ることができたと言えるだろう。クラシック音楽は歴史的背景や作曲家の意図、楽曲の構成など、様々な要素が絡み合って成り立っているが、本研究の実践においては、まずクラシック音楽の基本的な歴史や作曲家について学ぶことから始めた。例えば、モーツァルトやベートーヴェン、ショパンなどの作曲家の生涯や、彼らがどのような時代背景や環境で作曲したのかをクイズ形式などへの参加を通して学ぶことで、児童たちは音楽に対する理解を深めることができた。

児童たちは、実際に稿者の生演奏による演奏を聴いたのち、その楽曲が持つ特徴や感情、リズムやメロディの変化について話しあった。ここでは、音楽をただ聴くのではなく、感じたことや気づいたことを共有することを推奨した。これにより、児童たちは音楽をより深く感じ取り、自分なりの解釈や感想を持つことができるようになったと思われる。

また、ピアノ演奏に関しては、基本的なピアノの構造や音の出る仕組みについて学んだ。ピアノという楽器がどのように音を生み出すのか、そのメカニズムを知ることによって、演奏する際の理解が深まった。稿者の演奏する指先の動きをモニターに映し出すことで、児童たちはピアノ演奏の楽しさや難しさについて実感をもって理解したと思われる。これらの経験を通じて、児童たちはクラシック音楽やピアノ演奏に対する興味を大いに高めるとともに、音楽が単なる聴覚的な刺激以上のものであり、感情や思考を豊かにする力を持っていることを理解したと推察される。また、音楽を通じて自分の感情を表現したり、他者と共感し合ったりする経験は、児童たちの感性を豊かにし、コミュニケーション能力の向上にも寄与したと思われる。

さらに、この活動を通じて見られた児童たちの変化の一つに、今後の音楽教育に対する意欲の高まりが挙げられる。クラシック音楽やピアノ演奏の魅力を知った児童たちは、もっと深く学びたいという意欲を見せた。自宅での練習を積極的にしたいという声や、学校外の音楽教室に通うことを希望する声も多く聞かれた。このような自主的な学びの姿勢は、児童たちの成長にとって非常に重要な要素である。

音楽教育は、単に技術を習得するだけでなく、感性を育み、人間としての豊かな成長を促すものである。本研

究を通じて、児童たちはそれらを身をもって体験したものであると思われる。今後も、このようなアウトリーチ活動による音楽教育の機会を提供し続けることで、児童たちの豊かな感性と創造力を育てていくことに寄与したい。

引用文献

- 1) 文部科学省 (2017) 「小学校学習指導要領」
- 2) 北條美香代・吉田悠人・鈴木啓資・水野亜歴 (2024) 「奈良女子大学附属小学校における音楽アウトリーチ活動報告ー 芸術鑑賞会と楽器体験ワークショップにおける児童の主體的な学びに着目して」『連携教育開発センター紀要』第 2 号』, 35-40

参考文献

- 1) 木村貴紀・若原真由子 (2018) 「従来の演奏会に準拠した音楽アウトリーチに於ける演奏会のあり方」『北海道教育大学紀要 第 68 巻 第 2 号 教育科学編』, 455-465
- 2) 瀧川淳 (2022) 「タイプの異なる音楽鑑賞が児童に与える印象に関する研究：音楽鑑賞教室と音楽アウトリーチとの比較を通して」『国立音楽大学研究紀要 57』, 87-98
- 3) 松本菜摘・河添達也 (2015) 「小学校音楽科における「教育プロジェクト型アウトリーチ」の授業開発研究」『島根大学教育臨床総合研究 14』, 181 - 190
- 4) 山内信子 (2016) 「就学前施設の音楽アウトリーチ活動における演奏者と聴衆の相関関係に関する一考察」『聖和短期大学紀要 1 号』, 59-68
- 5) 佐々木寿子・工藤敬子・佐藤千聡・青柳美歩 (2021) 「幼少期における「生演奏」の重要性の一考察ー「豊かな感性と表現」の自発的な広がりを探るー」『羽陽学園短期大学紀要 第 11 巻 第 3 号』, 205-217

A Study of Developing Children's Qualities and Abilities through Piano
Performance and its Appreciation
-Practical Application through Outreach Activities-

Noritaka Ito / Yuriko Nose

Department of Childhood Education, Faculty of Welfare and Health Science,
Fukuyama Heisei University

E-mail : noritakaito@heisei-u.ac.jp

Abstract

The purpose of this study is to explore how children listen to and accept music through music outreach activities. Music outreach refers to professional musicians and music organizations visiting schools and local communities to provide educational activities and community support through music.

This study revealed the following findings. Through this activity, the children were able to deepen their understanding of classical music and piano performance and gain experience that enriched their sensibilities. In addition, understanding the mechanism of how the instrument produces sound seems to have deepened their understanding of the act of playing. Through these experiences, the children greatly increased their interest in classical music and piano playing and came to the understanding that music is more than just auditory stimulation and has the power to enrich their emotions and thoughts. In addition, the experience of expressing their feelings and empathizing with others through music enriched the children's sensitivity and contributed to the improvement of their communication skills.

Keywords: outreach activities, music outreach